

Y12c 天塾6年間全59回の軌跡

浅見奈緒子(日本教育大学院大学)、川越至桜、石川遼子、高梨直紘(東京大学)、日下部展彦、内藤 誠一郎、花山 秀和、岡本文典(国立天文台)、佐藤八重子(総研大)、平松正顕(中央研究院天文及天文物理研究所)、佐藤祐介(北海道大学)、水谷有宏(郡山市ふれあい科学館)

「天塾(あまのじゅく)」は、国立天文台や東大などに在籍して研究活動を行っている大学院生および若手研究者の有志による一般向けの天文学講座である。国立天文台では毎月天体観望会が開催され、季節の天体についての解説がされている。しかし、私達はもっと研究施設である国立天文台ならではの情報を皆様に提供できないかと考えてきた。研究現場にいる大学院生や研究員だからこそ出来る物理に基づいた理解、論文・データに裏付けられた最新の動向等、一般向けの啓蒙書やジャーナリズムの情報ではあまり表に出ない、専門家ならではの”生”の天文学を紹介したい。少し高度な知的充実エンターテイメントを提供することで、お客さんの知的好奇心・探究心を刺激したいという思いから、当時大学院生だった数名を中心に2004年1月24日「天塾」は開講の運びとなった。

それから数年が経ち、当時大学院生だった発起人たちもそれぞれの分野で研究員などに就職しつつも積極的に協力し、月1回第4土曜日開催の天塾を学生スタッフと共に脈々と継続してきた。その甲斐もあり、リピーターのお客さんも増え、そのようなお客さんはめきめき天文学の知識を吸収していったようにみられた。口コミでも広がる等、我々の目指した「難解であるが故に面白いエンターテイメント」を提供できたのではないかと実感しつつある。

2010年1月には満6年、3月には学生スタッフの卒業、研究員スタッフらの異動に伴い、最終回を迎えた。全59回天塾の開催ごとのアンケートの集計結果などを元に、聞き手側と話し手側の”2つのモチベーション”を結びつけるコミュニケーションの場の創設を目指した「天塾」としてのアウトリーチ形式の成果を報告する。